

雀宮地域の文化財



宇都宮市制百周年記念シンボルマーク
雀宮 地域



16 雀宮地区 仮本陣芦谷家



17 雀宮地区 福寿地蔵尊と比丘尼仏



18 雀宮地区 日光街道旧道



19 雀宮地区 綾女稲荷神社



20 雀宮地区 観音堂



21 雀宮地区 本陣小倉家跡



22 雀宮地区 太子堂



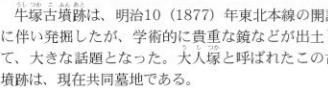
23 雀宮地区 あらだて地蔵尊



24 雀宮地区 牛塚古墳跡



25 雀宮地区 板碑と男性埴輪



26 宮内地区 十里木古墳の石室



26 宮内地区 十里木古墳の石室



27 宮内地区 三日月神社



28 下反町地区 白衣観音像



29 下横田地区 河原孫八不動尊

十里木古墳は、古墳時代後期の6～7世紀に築造されたもので、全長40mの前方後円墳で、国道の開設により前方部が削られ、今は後方部の石室が完全な姿で保存されている。

宮の内3丁目あった孤塚古墳の墳頂にあった稻荷神社を、14人の有志が昭和25年正月現在地に移し、更に淨財を集めて鹿沼市の三日月神社の祭神を分霊合祀し、宮内の氏神として崇敬している。

白衣観音像は、下反町公民館の中に安置されているが、これは大正年間初期に寄贈されたもので、像高は2尺の鉄造であり、地元の厚い信仰を集めている。

河原孫八不動尊は、宇都宮市新地にあったものを、昭和31年にこの細工瀬の小川氏が私財を投じて移築したもので、成田山新勝寺の不動尊の分身であるといふ。



28 上御田地区 西国三十三観音



29 中島地区 日蓮宗布教塔



30 下横田地区 子育地蔵尊



31 下横田地区 観音堂

福寿地蔵尊は、宝暦10（1760）年に窮乏の苦境から逃れる切実な願いを込めて祀られ、比丘尼仏は享保年間（1725頃）この地で亡くなった尼僧の冥福を祈って建立した。

西国三十三観音石像は、水草坂の東方にある加藤家の入口にあり、鹿沼の深岩石で造られた三十三体の清楚な観音像が祀られている。かつては、近所の人々が御詠歌を唱え、室内安全を祈願した。

日蓮宗布教塔は、明治20（1887）頃年代にこの地に疫病が流行ったため、日蓮宗の僧侶が病気平癡の祈祷を行った。これを契機として日蓮宗の布教に努めたため、広く信仰されるようになった。十三番や地蔵和諧の念仏をあげる。

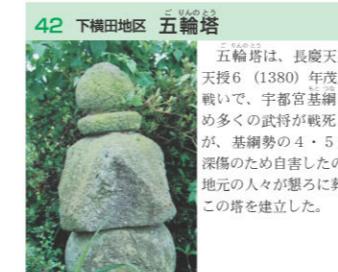
親音堂は、本坪の東にあり、俗に二十三夜仏と言われ、有志で守られています。お堂の中には聖觀世音菩薩像が左に、阿弥陀如来像が右に安置されています。



30 中島地区 稲荷社と青面金剛



31 中島地区 琴平塚古墳



32 下横田地区 五輪塔



33 下横田地区 慈眼寺跡

稲荷社と青面金剛は、かつて中島集落があった水田の中に残り、防災・延命・五穀豊穣・室内安全を祈願して祭祀している。

北関東自動車道宇都宮ICの北にある琴平塚古墳群は、かつて前方後円墳3基と円墳1基余があったが、開発により主墳1基が残った。6世紀前半に築造された二段式前方後円墳で、全長は52mで、円筒埴輪が出土している。

五輪塔は、長慶天皇の天授6（1380）年茂原の戦いで、宇都宮基綱を始め多くの武将が戦死したが、基綱勢の4・5人が深傷のため自害したので、地元の人々が懇ろに葬り、この塔を建立した。

慈眼寺は、石田感応寺の末寺で天台宗であった。江戸時代末期から明治初期まで、僧による寺子屋が開かれていたが、東谷の業王院・東小学校へと移り、次第に荒廃して、廃寺となつた。



20 雀宮地区 観音堂



21 雀宮地区 本陣小倉家跡



22 雀宮地区 あらだて地蔵尊



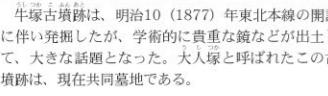
23 雀宮地区 あらだて地蔵尊



24 雀宮地区 牛塚古墳跡



25 雀宮地区 板碑と男性埴輪



26 宮内地区 十里木古墳の石室



26 宮内地区 十里木古墳の石室



27 宮内地区 三日月神社



28 下反町地区 白衣観音像



29 下横田地区 河原孫八不動尊

十里木古墳は、古墳時代後期の6～7世紀に築造されたもので、全長40mの前方後円墳で、国道の開設により前方部が削られ、今は後方部の石室が完全な姿で保存されている。

宮の内3丁目あった孤塚古墳の墳頂にあった稻荷神社を、14人の有志が昭和25年正月現在地に移し、更に淨財を集めて鹿沼市の三日月神社の祭神を分霊合祀し、宮内の氏神として崇敬している。

白衣観音像は、下反町公民館の中に安置されているが、これは大正年間初期に寄贈されたもので、像高は2尺の鉄造であり、地元の厚い信仰を集めている。

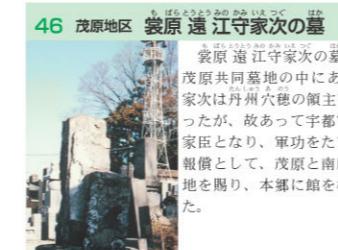
河原孫八不動尊は、宇都宮市新地にあったものを、昭和31年にこの細工瀬の小川氏が私財を投じて移築したもので、成田山新勝寺の不動尊の分身であるといふ。



28 上御田地区 西国三十三観音



29 中島地区 日蓮宗布教塔



30 下横田地区 子育地蔵尊



31 下横田地区 観音堂

福寿地蔵尊は、宝暦10（1760）年に窮乏の苦境から逃れる切実な願いを込めて祀られ、比丘尼仏は享保年間（1725頃）この地で亡くなった尼僧の冥福を祈って建立した。

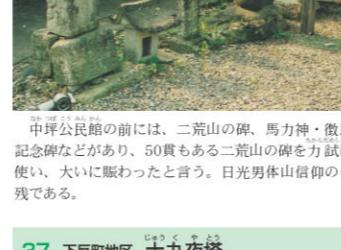
西国三十三観音石像は、水草坂の東方にある加藤家の入口にあり、鹿沼の深岩石で造られた三十三体の清楚な観音像が祀られている。かつては、近所の人々が御詠歌を唱え、室内安全を祈願した。

日蓮宗布教塔は、明治20（1887）頃年代にこの地に疫病が流行ったため、日蓮宗の僧侶が病気平癡の祈祷を行った。これを契機として日蓮宗の布教に努めたため、広く信仰されるようになった。十三番や地蔵和諧の念仏をあげる。

親音堂は、本坪の東にあり、俗に二十三夜仏と言われ、有志で守られています。お堂の中には聖觀世音菩薩像が左に、阿弥陀如来像が右に安置されています。



30 中島地区 稲荷社と青面金剛



31 中島地区 琴平塚古墳



32 下横田地区 五輪塔



33 下横田地区 慈眼寺跡

稲荷社と青面金剛は、かつて中島集落があった水田の中に残り、防災・延命・五穀豊穣・室内安全を祈願して祭祀している。

西国三十三観音石像は、水草坂の東方にある加藤家の入口にあり、鹿沼の深岩石で造られた三十三体の清楚な観音像が祀られている。かつては、近所の人々が御詠歌を唱え、室内安全を祈願した。

日蓮宗布教塔は、明治20（1887）頃年代にこの地に疫病が流行ったため、日蓮宗の僧侶が病気平癡の祈祷を行った。これを契機として日蓮宗の布教に努めたため、広く信仰されるようになった。十三番や地蔵和諧の念仏をあげる。

親音堂は、本坪の東にあり、俗に二十三夜仏と言われ、有志で守られています。お堂の中には聖觀世音菩薩像が左に、阿弥陀如来像が右に安置されています。



32 東谷地区 笹塚古墳



33 東谷地区 中坪の野仏



34 茂原地区 鈴木源之丞供養塔



35 茂原地区 観音堂

笹塚古墳は、5世紀頃この地を統治した豪族の墓と伝えられ、全長100m余の大前方後円墳で、墳頂には三日月神と千勝神がある。

中坪の野仏は、二荒山の碑、馬力神・徵馬記念碑などがあり、50貫もある二荒山の碑を力試に使い、大いに賑わったと言う。日光男体山信仰の名残である。

鈴木源之丞供養塔は、明和元（1764）年に起きた朝鮮動の犠牲者源之丞の三回忌に、村人達が偉人の冥福を祈って建立した六角の供養塔で、顯彰歌碑があり、近くに喜國神社もあるといふ。

慈眼寺は、石田感応寺の末寺で天台宗であった。江戸時代末期から明治初期まで、僧による寺子屋が開かれていたが、東谷の業王院・東小学校へと移り、次第に荒廃して、廃寺となつた。



34 東谷地区 笹塚古墳



35 東谷地区 中坪の野仏



36 東谷地区 東山道跡



37 下反町地区 十九夜塔

東山道は、8世紀に奈良の都から陸奥の国まで開